

# 令和8年度(2026年度)公益財団法人 音楽文化創造 事業計画

## 【目的】

当財団は、平成6年に制定された「音楽文化の振興のための学習環境の整備に関する法律」(略称:音楽振興法)の趣旨に基づき、音楽に関する文化活動を幅広く振興すると共に、生涯学習の一環としての音楽学習の活性化を図り、わが国の音楽文化の発展と音楽を通じた国際音楽の促進に寄与することを目的としている。令和8年度はこの目的に沿って事業を展開する。

## 【公益目的事業】

### 1. 音楽に関する国内外の協議会、講演会等の開催及びその開催のための協力

音楽振興法に基づき、全国各地域の音楽文化振興と生涯学習を普及推進していくことを目的に全国生涯学習音楽指導員協議会主催「FORUM in 国際音楽の日 2026 東京&横浜」の開催のために協力、協賛する。

- < タイトル > 「FORUM in 国際音楽の日 2026 東京&横浜」  
いつでも どこでも 誰とでも 音楽でつながる  
～次世代へつなげよう～音楽の宝～
- < テーマ > 童謡の奥深さやすばらしさを学び、今後引き継いでいく大切さを考える
- < 実施日程 > 2026年10月3日(土)、4日(日)
- < 会場 > ヤマハ音楽振興会 3F スペースM
- < 主催 > 全国生涯学習音楽指導員協議会
- < 主管 > FORUM in 国際音楽の日 2026 東京&横浜実行委員会
- < 協賛 > 公益財団法人 音楽文化創造
- < 後援 > (現在準備中)  
地方自治体、音楽団体、教育団体、公共施設他  
法人会員、個人会員他
- < 参加者 > 生涯学習音楽指導員、地域音楽コーディネーター、教育関係者、音楽関係者  
自治体関係者 他
- < 参加者目標 > 150名 \*オンライン参加含む
- < 内容 > (現在準備中)  
基調講演:海沼實氏 全日本音楽教室指導者連合会会長、日本歌手協会会長  
童謡・唱歌を用いた事例発表  
座談会  
全国生涯学習音楽指導員協議会23支部の活動紹介

### 2. 「国際音楽の日」の普及のための事業、その他音楽を通じた国内外の文化交流事業の実施

「国際音楽の日」の普及と地域の音楽振興のため、音楽団体や公共施設と連携して「国際音楽の日記念コンサート」等の実施を支援する。

- < 実施期間 > 2026年9月1日～12月31日
- < 開催地 > 全国各地の公共ホール、高校・大学ホール、生涯学習センター 等
- < 開催目標 > 全国10～13カ所程度

- < 内容 > 合唱、ミュージカル、吹奏楽、洋楽と邦楽のコラボレーション 等  
< 出演者 > 公募による地域の子供から大人 他  
< 入場者数 > 各コンサート 50名～1,500名

### 3. 音楽学習に関する指導員の養成プログラムの開発及び実施

#### ① 地域音楽コーディネーター養成講座

地域において音楽による文化振興を推進するために音楽家、地域住民、諸機関等関係者間の連携を図る人材を育成する講座を実施する。受講修了後「地域音楽コーディネーター」の資格を認定する。対象者は地域において音楽による社会貢献活動、社会文化活動に携わっている方々、今後始めようとしている方々など。

#### <内容>

##### 「生涯学習と音楽」

生涯にわたって音楽を学び続ける意味、地域コーディネーターに求められる役割

##### 「文化と地方創生」

地域の文化政策と文化芸術活動による地域創生の可能性と課題

##### 「地域文化マネジメント」

地域コミュニティによる音楽文化活動の現状と課題

##### 「音楽企画書の書き方」

わかりやすい企画書、申請書、報告書の書き方

#### <スケジュール>

(敬称略)

- 日程: 2026年 7月5日(日)
- 形式: オンライン
- 講師: 久保田慶一 (東京経済大学客員教授)他
  
- 日程: 2026年 11月21日(土) \*未確定
- 形式: 対面 (Niterrra日本特殊陶業市民会館)
- 講師: 広中省子 (ジョイントフェスティバル協議会 会長)他
  
- 日程: 2027年 1月17日(日)
- 形式: オンライン
- 講師: 志々田まなみ (国立教育政策研究所総括研究官)他
  
- 日程: 2027年 2月 14日(日)
- 形式: 対面(東大阪市文化創造館)
- 講師: 渡辺 昌明(東大阪市文化創造館 館長)他

#### <受講者目標数>

オンライン 40名～45名 X 2回 80～90名

対面 30～35名 X 2会場 60～70名  
(計)140～160名

## ② 部活動指導者養成講座・研修会

部活動の地域展開は、少子化が深刻な地方都市から徐々に始まっているが、受け皿となるそれらの地域社会においては学校の先生に代わる指導者の質と数の確保が喫緊の課題となっている。弊財団では指導者育成カリキュラムは既に開発しているが、その具体的な活用には至っていない。そこで、吹奏楽や合唱の指導者団体と連携して当該カリキュラムを活用した指導者育成事業を展開する。具体策については、これから関連団体と協議を行うこととなるが、講座・研修会を実施するための運営体制、認定制度等を整え、26年度中に数回程度の講座・研修会を実施する予定。

### <実施内容>

- 運営体制の構築
- カリキュラムの整備
- 認定・登録制度の整備
- 講座・研修会の実施
- 登録
- Webを活用した情報発信

## ③ 地域音楽コーディネーター活動支援

弊財団認定の地域音楽コーディネーターの中には、不登校や引きこもりの子ども達のために音楽を通じた第三の居場所作りに注力している人達が多数存在している。それらの地域音楽コーディネーターは、各地で単独で活動しているケースが多いため、適切な情報や支援が受け難い環境にある。そこで、弊財団として彼らへの情報提供、支援の一環としてセミナーや座談会を予定する。

### <実施内容>

- 社会教育誌や子ども家庭庁他と協力してセミナー、研修会等を企画
- 該当する地域音楽コーディネーター間での座談会の開催
- Webを活用した情報発信

## 4. 音楽に関する調査研究並びに情報の収集及び提供

### ① デジタル部活動の普及促進

部活動の地域展開では、広域過疎地区、山間部、離島を始め少子化が進む地方都市で指導者不足が深刻化している。特に木管、金管、打楽器等専門パートに分かれている吹奏楽部での指導者不足が深刻である。そこで弊財団は、人材豊富な東京、名古屋、大阪等の都心からデジタルオンライン技術を活用して専門家が遠隔指導することが出来るデジタル部活動を推奨している。折しも、学校現場はICT化が進み、既存のZoom等の配信システムを活用することで新たな機材を購入せずに対応が可能となっている。ただし、このデジタル部活動には、音の遅延問題やオンライン指導法等に課題も少なからず残っているため、この課題解消のため関係者と調査研究を進め普及促進を図る。

### <実施内容>

- 企業(ヤマハ、ヤマハミュージックジャパン、近畿日本ツーリスト)、教育機関、文化団体等と協力体制

- を構築
- 開発したシステムの实地調査
  - Webを活用した情報発信

## ② 音楽文化創造創立30周年記念誌の出版

2026年度は、弊財団創立30周年となるため、今までの活動内容の総括と今後の展望や活動方針等をまとめた小冊子を発行する。

- 内容:沿革、財団の主要事業、今後の展望、CMC特集一覧、他
- 配布対象:弊財団関係者、会員、認定者(生涯学習音楽指導員、地域音楽コーディネーター)他

## 【その他の事業】

### 1. 音楽に関する出版物の編集及び発行

当財団の公式サイト(<http://www.onbunso.or.jp>)上で生涯音楽学習に関する特集テーマと研究論文を中心に、各地域での音楽文化振興への取り組みや音楽学習活動の研究等も取り上げた音楽文化と生涯音楽学習の総合情報・研究誌「音楽文化の創造」(CMC=Creating Music Culture)を年4回発信する。また創刊から78号までのバックナンバーについても公式サイトで掲示し、常時申込みにより販売する。

<特集テーマの予定>

- VOL.36 (4月) 人口減少、少子化と音楽
- VOL.37 (7月) セカンドライフと音楽
- VOL.38 (10月) ニューメディアと音楽
- VOL.39 (1月) 校歌今昔物語